

初めての日本旅行記

馬超群 (男 14才 中学2年 ホストは林 鈴美さん)

(一)

冬休みに僕が日本へ行ったのは、承德市青少年友好訪問団の一員としてだ。僕の記憶では、それは大変楽しい訪問旅行で、収穫が大だった。

日本到着第一日目、僕たちは柏市役所でホストファミリーと会った。あの時、僕たちはお互いによく知らなかったけれど、なんとなく親しみを感じた。どの人の顔にも笑みがうかんでいた。



対面式の時、僕がホームステイする家の林さんがホストを代表して挨拶をされた。僕はとても感動した。というのは、日本でこんなに標準的な中国語を聞くことができ、しかも生粋の日本人が話していたから。こう言うことはめったにないからだ。終わってから、僕たちは”臨時の父母”と一緒にホームステイ先へ行った。

以前僕がテレビで見たことがある日本の住宅は都市の小別荘風で、日本式畳の上で寝るというものだった。今日僕はやっと実物を見たのだ！その上今日から自分で体験できるのだ、僕は内心自負し、誇りに思った。自負というのは異国へ参観学習する機会をもてた事、これは大変な事だ。誇りとは僕も独りで家から離れて、自分で自分の事ができるようになった事だ

(二)

、、今、日本人と話をしているだ、、今、日本人と話をしているだ、、僕は心の中で何度も自分をたしなめた。きっと間違っではない。日本での生活の数日、僕たちの間の言語交流は世界共通語すなわち英語だ。英語といえば、僕はとても気まずい思いをする。この時、やっと英会話練習がどんなに重要であるかを知った。今まで英会話は重要でないと思っていたので、僕の英会話は無茶苦茶だ。今度初めて外国人と交流して本当に緊張した。最初の日、僕は奥さんと英語で対話した時、たくさんの単語を忘れてしまっていたが、幸い、ご主人の林さんは中国語ができるので大いに助かった。林さんは中国へ行ったことがある。中国語が話せる、

しかも大変上手だ。半分中国人だと言える。最初の晩、僕の家が無事に着いたと知らせる電話をかけてくれた時、本物の承德の人みたい、日本人だとは思えなかったと、僕のお母さんは言っていた。ああ、両国の文化は何とよく似ているのだろう！僕は心中ひそかに決心した。帰ったら、必ずしっかりと英会話練習しよう、中国人に恥をかかせてはいけない

(三)

二日目、僕たちは柏市の有名な企業、日立メデイコや日本で有名な東京大学を見学した！日本の発達した工業、高い科学技術の医療器械、先進的で広々とした大学、これらすべてについて承德市は到底及ばない。僕はこうして知識を増やした、中国の足りないものを見つけた。この日無駄に歩き回ったのではない。

、、、さて、一番楽しかった場所を話そう！それはもちろんデズニランドだ。ゲートを入ると、僕は思わず感嘆の声を発した。「わー、これは宮殿じゃないか！香港のよりずっと大きいぞ！」この日、僕たちは一日中デズニランドで遊んだんだぞ！とっても楽しかったんだ！

(四)

日本の茶道は非常に有名だそう。この日、僕たちは日本の茶道を味わった。日本の茶道は中国から伝わって来たものだそうだが、飲んでみると中国のお茶の味と余り似ていないとやっとわかった。日本の茶道は礼儀作法上、大きな違いがある。着る物だけではなく、歩き方、お茶を立てる技法も独特の格式がある。



茶道には濃い茶と抹茶がある。お茶を立てる人を主人と言い、お茶を飲む時次の人に「お先にいただきます。」と言う。僕たちはお茶菓子も味わった。お菓子は小さいけれど、長い時間かけてやっと作り上げたもので、とても手が込んでいる。一口、口に入れると、あー、とっても美味しい！

(五)

このように何日も楽しんだが、帰国しなければならなくなった。帰るとなると、嬉しいし、又悲しい。父母や友達に会えるのは嬉しいが、僕は日本という所と日本の人たちが好きになったのだ！日本は礼儀の国、言葉、行い、振る舞いが大変丁寧

だ。本当のところ、僕はまだ名残惜しい。林さんや奥さんと別れるのはつらい。柏市国際交流協会、承德委員会の皆さん、日本というこの美しい友好の国に後ろ髪をひかれます。

(まとめ)

柏の皆さん、心のこもったおもてなしに対して、またホームステイでお世話になったことに対して、本当に有り難うございました。皆さんが中国に来られたら、僕たちの故郷、承德へ来てください。お待ちしております。中国人も親切で客好きです。僕たちの故郷、承德には世界最大の宮殿－避暑山荘、世界最高の木彫大仏－千手観音像などなど、こんなに沢山楽しい所があります。日本のお友達の皆さん、見に来てください！お待ちしております！